

1 実践の目的

本校は、保護者や地域に配慮した小規模校ならではの教育が行われてきたため、教職員数に比べて業務量が多く、教職員の苦労が多かった。また、児童数の減少に伴って教職員数が減り、教職員一人一人の授業時数や業務量も増えてきた。そこでより豊かな教育ができるよう、教職員にゆとりを生み出す教育課程編成や業務内容の改善を進めた。

2 実践内容

(1) 教職員に多忙感を感じさせる煩雑な業務の削減

- ① 教職員からの聞き取り等で、教育課程やP T A活動等の課題を探った。休日に行われる業務の削減に向けて、教育課程編成時の工夫やP T A活動等の改善をすることで、休日出勤日を削減した。
- ② 通信票の書式や内容を大幅に改良した。道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間の記録等を年1回の表記として、文章量・業務量の削減と共に、指導要録作成業務の効率化も図った。
- ③ 教科等の時数計算がされる週案簿の使用や生徒指導記録の校務支援ソフト使用により、紙媒体での資料作成の手間を削減したり、学校評価を年1回にして回答や集約の手間を省いたりした。

(2) 効果的でゆとりのあるシンプルな教育課程の編成

- ① 教育課程に関する内容を全て冊子に盛り込んだ上で内容を厳選し、56ページの冊子にまとめた。書式を統一してすっきりと教育活動全体が理解できるように改めることで、教職員が共通理解して教育課程を推進する体制を整えた。
- ② ゆとりある日課表の作成に取り組み、1週間通してどの曜日も同じ時間帯で生活できるシンプルな物に改善した。また、6時間授業の日を減らして会議日を設けるため、モジュール授業を週3回取り入れた。
- ③ 児童数減少により、効果的な学習が困難になっていた音楽科や体育科について、1・2年、3・4年を合同で行うことにより、教え合い、練り合い、競い合うという授業の効果を高めることが出来るようにした。
- ④ 部活動の活動内容を教育課程冊子に明記することで、活動日時を3年計画で縮減した。その他の行事も厳選し、行事やその準備に追われる事のないように配慮して年間計画を作成した。

3 実践の成果と今後の課題

これらの取り組みにより、教職員の負担を大幅に削減することができ、ゆとりある日課や年間指導計画の中で教職員も児童も伸び伸びと活動することができた。こうして、新指導要領に基づいた授業や行事などにゆとりをもって重点的に取り組むことができた。

成果の検証として、2年間の学校評価の比較において、保護者からの評価に大幅な向上が見られた。教職員からも、ゆとりある日課や年間教育計画が業務改善に効果を上げているという声が多数寄せられた。一方、教職員の時間外勤務は、本年度月当たり一人平均37時間となり、この4年間で一人平均19時間短縮することができた。

これらのことから、本校では業務の効率化を図り、教育効果を高めることができたと言えることができる。新指導要領実施に伴う業務量の増加に対応して、小規模校ならではのより良い学校教育の実現に向けて、さらに改善を進めていきたい。